

2026年4月/9月 大学院商学研究科 修士課程入学試験問題 専門科目

注意事項

1. 試験開始の合図があるまで、問題用紙および解答用紙に触れないこと。
2. 問題用紙および解答用紙はそれぞれ別の用紙になっている。
3. 9題のうち2題を選択すること。
4. 少なくとも1題は、自分の志望する研究指導が属する専修・領域の問題を選択すること。
5. 専門科目の答案は二次試験の参考資料とするので、それを踏まえて問題を選択すること。
6. 試験開始の合図後、解答用紙左上の指定された□内に選択した問題番号を、所定の欄に受験番号、氏名を次の数字記入例にしたがい、読みやすいように、正確に丁寧に記入すること。また、所定の欄以外に受験番号および氏名を記入しないこと。

【数字記入例】

正	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
誤	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
					↑			7		9

7. 解答は、黒色または青色のインクのペンまたはボールペンを使用し、すべて解答用紙の所定の欄に最大1000字程度（グラフまたは図を用いる場合の文字数は含めない）で書くこと。消しゴムで文字を消すことができるインクのペンまたはボールペンは使用しないこと。鉛筆書きは不可。
8. 解答用紙の裏面に記入してはならない。
9. 修正液または修正テープの使用は認める。
10. 筆記用具、修正液および修正テープは貸与しない。
11. 問題用紙および解答用紙は原則として取り替えない。
12. 解答は必ず 1問につき1枚の解答用紙を使用すること

以 上

2026年4月/9月 大学院商学研究科

修士課程入学試験問題 専門科目

【設問1】 経営専修 経営領域

以下のすべての問いに答えてください。

1 問目

プロダクト・イノベーションとプロセス・イノベーション、そしてドミナント・デザイン の概念を定義してください。なぜプロダクト・イノベーションは初期段階に多く起こり、時間経過とともに減少するのか、そしてプロセス・イノベーションは時間の経過とともに増加するのかを、ドミナント・デザインの概念を用いて説明してください。

2 問目

企業は、自社だけでは十分に確保できない経営資源や知識を補完するために、他企業と協力する協調戦略を用いることがあります。協調戦略の中心的形態である戦略的提携には、①ジョイントベンチャー（合併事業）、②資本関係のある戦略的提携、③資本関係のない戦略的提携の三つが存在します。

まず、これら三つの戦略的提携について、それぞれの特徴の違いと利点を説明してください。市場変化の周期が速い市場が企業の意思決定やパフォーマンスにどのような影響を及ぼすかを考えて、そのような市場で最も有効であると考えられる戦略的提携を選び、その理由を述べてください。

3 問目

リーダーシップ研究の分野において、トランスフォーメーション・リーダーシップは、これまでに最も高い評価を受けてきた理論です。まず、トランスフォーメーション・リーダーシップとはどのような理論であるかを定義しなさい。また、この理論を構成する主要な四つの要素を二つ選んで、簡潔に説明しなさい。ただし、トランスフォーメーション・リーダーシップに関する説明は不要です。

最後に、なぜトランスフォーメーション・リーダーシップが他のリーダーシップ理論（例えばリーダー行動や個人特性理論）よりも人気を集め、最も賞賛される理論の一つとなったのかを論じてください。

【設問2】 マーケティング・国際ビジネス専修 マーケティング領域

以下のすべての設問に答えなさい。

1. 先発ブランドが有する優位性に対し、後発ブランドにも複数のメリットが存在することが知られている。後発ブランドのメリットとして考えられるものを3つ説明しなさい。
2. ダイナミック・プライシングと需要の価格弾力性とは何かをそれぞれ説明しなさい。そのうえで、需要の価格弾力性が非弾力的であった場合のダイナミック・プライシングの有効性について、あなたの考えを述べなさい。
3. ソーシャル・リスニングとは何かを説明したうえで、マーケティング上の意思決定に用いる際の注意点や課題について論じなさい。

【設問3】 マーケティング・国際ビジネス専修 国際ビジネス領域

以下の3問すべてに簡潔に答えなさい。必要に応じて、簡単な図（生産可能性フロンティア、相対価格など）を用いなさい。

問1 リプチンスキー定理を定義しなさい。

その上で、国際労働移動が受入国・送出国に与える影響について、理論的予測と現実経済が一致する点／一致しない点を述べなさい。

問2 ストルパー＝サミュエルソン定理を定義しなさい。

その上で、同定理の示唆に基づき、貿易が所得格差に与える影響を論じなさい。

さらに、現実の格差を説明する際に、同定理だけでは不十分となり得る理由を説明しなさい。

問3 ヘクシャー＝オリーソン（H-O）定理を定義し、要素賦存と比較優位の関係を説明しなさい。

その上で、20世紀以降の国際貿易の主要な変化（先進国間貿易の拡大、産業内貿易、多国籍企業とFDI、グローバル・バリューチェーン、東アジア生産ネットワーク等）を1～2点取り上げ、H-Oで説明できる部分と、H-Oでは説明が難しい部分を論じなさい。

[設問 4] 金融・保険専修 金融領域

以下の全ての設問に答えなさい。

1. ある企業がある年の初めに2つの投資プロジェクト（プロジェクト A、プロジェクト B）を実行すべきかどうかを考えている状況を想定する。

プロジェクト A は、それを行うためには現時点で 5000 のコストがかかるが、毎年末に 750 のキャッシュフローを生む。この毎年末にもたらされるキャッシュフロー 750 は無限に続くものとする。

一方、プロジェクト B は、それを行うためには現時点で 500 のコストがかかるが、今年末に 100 のキャッシュフローを生み、この年末にもたらされるキャッシュフローは毎年 5% の率で成長するものとする。すなわち、2 年目の末には 100×1.05 、3 年目の末には 100×1.05^2 、4 年目の末には 100×1.05^3 というようにキャッシュフローは年々増加し、これも無限に続いていくものとする。

プロジェクト A、プロジェクト B のリスクを考慮した割引率は共に 10% である。このとき次の問いに答えなさい。

- (1) プロジェクト A の NPV（正味現在価値あるいは純現在価値）を求めよ。そして、NPV 法（純現在価値法）にしたがってプロジェクト A を実行すべきかどうかを判断せよ。
- (2) プロジェクト A の IRR（内部収益率）を求めよ。そして IRR 法（内部収益率法）にしたがってプロジェクト A を実行すべきかどうかを判断せよ。
- (3) プロジェクト B の NPV（正味現在価値あるいは純現在価値）を求めよ。そして、NPV 法（純現在価値法）にしたがってプロジェクト B を実行すべきかどうかを判断せよ。
- (4) プロジェクト B の IRR（内部収益率）を求めよ。そして IRR 法（内部収益率法）にしたがってプロジェクト B を実行すべきかどうかを判断せよ。
- (5) この企業はプロジェクト A またはプロジェクト B のどちらか 1 つしか実行できないとしよう（プロジェクト A とプロジェクト B は相互に排他的なプロジェクトである）。企業価値を最大にするためには、プロジェクト A、プロジェクト B のどちらを実行すべきであろうか。両プロジェクトの NPV を比較し、また両プロジェクトの IRR を比較した上で、どちらを実行すべきかを判断せよ。またそう判断した理由を述べよ。
- (6) 中央銀行が金融政策のスタンスを変更し、債券買いオペレーションを盛んに行うようになると、それは一般に企業のプロジェクトの NPV の値にどのような影響を与えると考えられるか。その理由も含めて述べよ。また、企業のプロジェクトの IRR の値にはどのような影響を与えると考えられるか。その理由も含めて述べよ。

2. ある企業は今後 T 年間存続すると考えられており、この企業の株式を保有していると T 年後まで毎年 1 回配当を受け取ることができる。より具体的に言うと、今から 1 年後に D_1 、2 年後に D_2 、3 年後に D_3 、... k 年後に D_k 、... T 年後に D_T だけの配当を受け取ることができる。なおこの将来の受け取り配当の割引率を r とする。このとき次の問いに答えなさい。

- (1) 配当割引モデル（配当還元モデル、DDM）によると、この株式の現時点の価値 S はどのような式で表せるか。
- (2) 今後 k 年間株式を保有し、 k 年後の配当を受け取った後すぐに株式を売却する投資家を考える。 k 年後の株式の売却価格を P_k とすると、この投資家にとっての現時点の株式価値 S_i はどのような式で表せるか。
- (3) k 年後に株式を売却するときの価格 P_k が配当割引モデルで決まるとすると、(2) の投資家にとっての現時点の株式価値 S_i はどのような式で表せるか。
- (4) 仮に現在の株価 P が (1) の配当割引モデルで計算された株式価値 (S) に等しくなっているとしよう。その場合、現在この株式に投資する（現在この株式を購入して T 年間配当を受け取る）ことの NPV（正味現在価値あるいは純現在価値）を求めよ。
- (5) 一般に中央銀行が金融緩和政策を行うと企業の株価は上昇することが多い。その理由を (1) の株式価値 (S) の式と「株式市場の効率性」という概念を使って説明せよ。

【設問5】 金融・保険専修 保険領域

以下のすべての問いに答えなさい。

1. 保険に類似する制度を複数あげて、それらが保険と共通する点、相違する点を示して、保険とは何かを説明しなさい。
2. 企業においてリスクマネジメントを効果的に進めて定着させるうえでは、何が必要か、あるいは有効か、あなたの考えを記しなさい。
3. 日本を含むほとんどの国では、損害保険事業と生命保険事業を同一の会社で営むことを禁止している。その理由を説明しなさい。また、現代の保険が進化する中で、こうした二分化に基づく兼営禁止が有効といえるか、あなたの考えを記しなさい。

【設問6】 会計専修 財務会計領域

上場会社を前提に、近年、いわゆる「自社株買い」が盛んにおこなわれている。2001年10月以降、株主総会の決議を経て、分配可能額の範囲内であれば、原則的に自由に自己株式を取得し保有できるようになった。これについて次の問に全て答えなさい。

- (1) 自己株式は貸借対照表上どのように表示されますか？
- (2) この取引は伝統的な「資本充実」の要請の観点からはどのように評価されえますか？
- (3) 金融庁や東京証券取引所は「資本コストを意識した経営」を推奨しています。この観点から、「自社株買い」はどのように評価され、実際の経営実務にどのような影響を与えていると考えられますか。金融商品取引法（第一条）の目的である「国民経済の健全な発展」の観点からはどのように評価されるのでしょうか。

【設問7】 会計専修 管理会計領域

あるソバ屋では、ここ1年ほど材料費の仕入原価が高騰していることから、メニューの価格改定を検討している。従来は、材料の仕入原価に一定の利益を加算する（a）法を用いてメニューの価格を決定していたが、今回の価格改定では、ソバとうどんを提供するための手間賃（加工費）を含めた製造原価を計算し、その結果にもとづいて価格を決定することにした。

また、これまで、ソバとうどんを同一の価格で提供しているが、ソバとうどんを提供するための製造原価をそれぞれ計算して比較し、その差額が大きい場合にはソバとうどんを異なる価格で提供することも検討することにした。なお、たとえば、天ぷらソバと天ぷらうどんの製造原価を比較するときは、天ぷらを製造する原価は同じであるために、天ぷらソバと天ぷらうどんの間で天ぷらの原価の差額は発生せず、意思決定によって差額が発生しない（b）原価となる。そこで、このソバ屋は、計算を簡略化することを目的として、かけソバとかけうどんの製造原価のみを計算して比較することにした。

以下の各問のすべてについて、注1から注3までの指示にしたがい、解答しなさい。

注1 解答は、それぞれ問の番号を明記したあとに、問の番号の順にしたがって日本語で記述すること。

注2 問3から問12の計算過程は、問題用紙の余白などを使用して書いてもよいが、解答用紙には記載しないこと。

注3 計算の途中で小数点第2位以下の端数が出たときには小数第2位で四捨五入し、それ以後の計算では小数点第1位までの数値のみを使用すること（例：3.842→3.8、4.185%→4.2%、7.482%→7.5%）。

問1 上述の文中の空欄（a）にあてはまる適切な用語を解答しなさい。

問2 上述の文中の空欄（b）にあてはまる適切な用語を解答しなさい。

問3 次の〈資料1〉にもとづき、ソバの月末仕掛品原価を計算し、解答しなさい。

〈資料1〉

生産データ	ソバ		うどん		原価データ	ソバ		うどん	
	数量	仕入原価	数量	仕入原価		数量	仕入原価	数量	仕入原価
月初仕掛品	20杯(25%)	10杯(25%)	10杯(25%)	10杯(25%)	月初仕掛品原価				
当月着手	500杯	100杯	100杯	100杯	直接材料費	¥8,000	¥2,100		
小計	520杯	110杯	110杯	110杯	加工費	¥3,900	¥6,050		
月末仕掛品	10杯(30%)	10杯(30%)	10杯(30%)	10杯(30%)	当月製造費用				
(差引)完成品	510杯	100杯	100杯	100杯	直接材料費	¥70,000	¥10,000		
					加工費		¥180,000		

- ・（ ）内の数値は加工進捗度である。
- ・直接材料はすべて工程の始点で投入する。
- ・ソバおよびうどんは同じ釜で茹でているため、組間接費となる加工費は直接作業時間を基準としてソバとうどんとに組別配賦を行うこととした。それぞれの製造に要した直接作業時間は、ソバが100時間、うどんが20時間である。
- ・ソバおよびうどんの月末仕掛品は、ともに平均法によって評価している。

問4 問3の〈資料1〉にもとづき、ソバの完成品総合原価を計算し、解答しなさい。

問5 問3の〈資料1〉にもとづき、ウドンの月末仕掛品原価を計算し、解答しなさい。

問6 問3の〈資料1〉にもとづき、ウドンの完成品総合原価を計算し、解答しなさい。

問7 このソバ屋では、問4および問6で計算した、ソバおよびウドンの完成品総合原価にもとづいて計算したソバとウドンの製造単価の差額が¥50以下であれば、ソバとウドンを従来どおり同一価格で販売しようと考えている。ソバとウドンの製造単価の差額を計算し、ソバとウドンを同一価格で販売してよいかどうかを検討し、解答しなさい。

問8 このソバ屋では、並盛りの販売価格に¥150円を追加することで、ソバおよびウドンの大盛りを提供している。〈資料1〉にもとづいて問4、問6および問7の計算によってソバとウドンの販売価格を決定した翌月、ソバの並盛りの販売価格とソバの大盛りの販売価格との差額を¥150円とすることが妥当であるかどうか気がになった。そこで、このソバ屋では、次の〈資料2〉によって、等級別総合原価計算により並盛りと大盛りの製造原価をそれぞれ計算して検討することとした。ソバの月末仕掛品原価を計算し、解答しなさい。

〈資料2〉

生産データ		原価データ	
月初仕掛品	10杯(30%)	月初仕掛品原価	
当月着手	600杯	直接材料費	¥ ?
小計	610杯	加工費	¥ ?
月末仕掛品	10杯(40%)	当月製造費用	
(差引)完成品	600杯	直接材料費	¥123,550
並盛り	400杯	加工費	¥192,380
大盛り	200杯		

- ・ () 内の数値は加工進捗度である。
- ・ 直接材料はすべて工程の始点で投入する。
- ・ 並盛りおよび大盛りの月末仕掛品は、ともに平均法によって評価している。
- ・ 等級品である並盛りと大盛りへの原価の配分は、等価係数を使用して積数単位原価を計算し、完成品総合原価を並盛りと大盛りへと配分する方法を採用している。
- ・ 並盛りと大盛りの等価係数は、直接材料費および加工費ともに、1.0 : 1.5である。

問9 問8の〈資料2〉にもとづき、ソバの完成品総合原価を計算し、解答しなさい。

問10 問9で計算したソバの完成品総合原価を等価係数を使用して配分し、ソバの並盛りの完成品総合原価を計算し、解答しなさい。

問11 問9で計算したソバの完成品総合原価を等価係数を使用して配分し、ソバの大盛りの完成品総合原価を計算し、解答しなさい。

問12 問10および問11で計算した並盛りと大盛りの完成品総合原価にもとづいてそれぞれの製造単価を計算し、ソバの並盛りの販売価格に¥150を追加してソバの大盛りを提供することが妥当であるか否かを検討し、解答しなさい。

【設問8】 理論・計量専修／公共政策・経済史専修 ミクロ経済学領域

以下の問のすべてに答えよ。

- 1) いま、労働市場が需要独占の状況にあるとする。この時の市場の均衡および社会的余剰を、完全競争市場の状況と比較しながら説明せよ。
- 2) 需要独占の状況にある労働市場において最低賃金制度が導入されたときの均衡および余剰に与える影響について説明せよ。完全競争市場の状況と比較しながら記述すること。その際に、労働供給の賃金弾力性について言及すること。

【設問9】 理論・計量専修／公共政策・経済史専修 マクロ経済学領域

以下の問のすべてに答えよ。

- 1) 企業の設備投資について考える。限界効率による決定およびトービンの Q 理論について説明せよ。
- 2) 株価の決定要因について配当割引モデルを説明せよ。その際に、リスクプレミアムについても言及すること。
- 3) 投資家が ESG を考慮した企業に投資するようになっている。この行動は、企業の設備投資にどのようなメカニズムで影響を与えるか。
- 4) 企業の流動性制約が設備投資に与える影響について簡単に説明した上で、現実の日本企業において流動性制約を回避するためのどのような仕組みがあるかについて議論せよ。

